

本来で本当の自分に甦る方法(その3)

第11番目の方法:死生観(いきがい論)から人生を俯瞰する

船戸崇史

新年あけましておめでとうございます。

年の始まりに、数年前から今だに社会に蔓延する「コロナ禍」から考えてみたいと思います。全てに意味のないものはないとするなら、「コロナ」ほど現在世界中の人々の共通のテーマはありません。つまり、時代は世界中でコロナという共通のテーマで新しい時代を呼び出そうとしていると言っても過言ではありません。

ではコロナは一体何を我々に問うているのか？

私は一言で言えば「かかわり方の見直し」ではないかと思っています。

そもそも「人間」は「人」と「人」の「間」に生きる存在です。その意味ではコロナの言い分は一言で言えば「従来のかかわり方を見直しなさい」と私には思えます。ではどう見直せば良いのでしょうか？結論から申せば、今までの通信でも書きました通り、私は「3密から三密へ」つまり、密閉・密集・密接の関係性を身口意の三業を整えた関係性へ変えるという従来からの甦りではないかと通信で書いてきました。(三業とは密教の言葉で、身密；印を結ぶ＝振る舞いを正し、口密；真言を唱える＝言葉を正し、意密；心に本尊を観る＝心の在り方を正す)

それは具体的にどうするのか？

私は今回「死生観(いきがい論)から見直す方法」という見方を提案したいと思います。それは図らずも「本来で本当の自分に甦る、第11番目の方法」にもなるのではないかと思ったからです。

では今回はそれを供覧しましょう。

その前に今、世界を席卷するオミクロン株について一言

一度「新型コロナオミクロン株」の立場で考えてみるという見方があるかもしれません。

コロナは常に変異しますが、それは生き残りをかけた進化であるとも言えます。では、ゴールはどこでしょうか？結論から言うと、コロナウイルスの宿主である人間と「共存」する事ではないかという事です。同じコロナウイルスの亜種であるサーズもマーズも宿主(人間)が死んでしまうほどの強い毒性のため自らも生き残ることは出来ませんでした。そこで、今回のオミクロンを見るとスパイクタンパクに30か所以上の変異がある事で宿主の細胞へは侵入しやすくなりますが(感染はしやすい＝生き残りをかけている)、どうもその先の重症化や死亡が非常に少ないのです(＝宿主と共存している)。

その意味では、高い重症化、死亡率のデルタ株とは大違いです。しかし、私たちの中では、コロナ変異と

言えば、直接の感染への不安だけではなく社会経済活動の大きな制約のイメージが強く、その目でオミクロンを見ている風潮が感じられます。マスコミもオミクロンへの不安を大きく煽っているように見えます。その結果、「撲滅」を目指してしまうのです。それが、新たな変異を生む可能性は高いです。

そもそも、わたしが思うに日本人は「共存」が得意な人種ではないかと思えます。

これは全く私の憶測ですが、現在の世界のコロナ蔓延状況とは裏腹に日本のコロナ感染は非常に少ない状況を保っています（令和3年12月現在）。

なぜか先進国の中で日本だけがコロナ5波が急速に減少しているのです。これは、専門家も不明であるが高ワクチン接種の上にマスクや手洗い3密回避などの日本人の清潔好きな生活習慣が関係しているのではないかと言われていました。しかし、それ以外にも要因があるのではないかとファクターXと名付けられていました。

そして、このほどファクターXの一端が理化研から発表されたのです。

日本人の約6割にある白血球の型「HLA-A24」を持つ人は、風邪の原因となる季節性コロナウイルスに対する免疫細胞が、新型コロナウイルスの感染細胞も攻撃するという実験結果を、理化学研究所のチームが発表した。英科学誌コミュニケーションズ・バイオロジーに論文が掲載された。

理化研の藤井真一郎チームリーダーらは、日本人に多いA24を持つ人で、ウイルスに感染した細胞を排除する免疫細胞「キラーT細胞」の働きを調べた。

その結果、この型を持つ人のキラーT細胞は、季節性コロナと新型コロナで、共通する部分の分子に反応することがわかった。キラーT細胞には、こうした特徴を記憶する働きがある。過去に季節性コロナに感染した人が、新型コロナに感染すると、体内で眠っていたキラーT細胞が速やかに増え、感染細胞を排除している可能性があるという。

日本は海外に比べて新型コロナの感染者や死者が少ないとされ、「ファクターX」と呼ばれる日本人特有の未知の要因が存在しているという指摘がある。藤井チームリーダーは「A24がファクターXの候補と考えられ、治療薬の開発などにつながるかもしれない」と話している。

医療ニュース（読売新聞、2021、12、10）下線は筆者

https://www.m3.com/news/general/991493?dcf_doctor=true&portalId=mailmag&mmp=MD211210&dcf_doctor=true&mc.l=806131413&eml=f8d46c5ffefd6370a9fc5bb8221011e1

ファクターXの一部に日本人の季節性の風邪（コロナ感染）があったというのです。推して言えば、日本人は季節性の風邪を引くこと（コロナに暴露されること）が幸いしていたとも言えるのです。

ここで重要なことは、もし今までの日本でも、季節性の風邪を完全に水際で防いでいたら（身体にウイルスを入れなかったら）、体内では抗体ができません。そうすれば、今回のコロナ感染の5波減弱はなかったかもしれない。つまり、日本人は、結果的に今までの季節性の感冒（コロナ）と「共存」してきたことが今の結果になっていると言えるのではないかと思うのです。

さて、長くなりましたが、私は現在のコロナ対策、コロナ「撲滅」という考え方にこそ発想法として問題があると思います。発想法を転換してコロナ「共存」だと思うのです。考えてみてください。そもそも我々の体内は、100兆を超える細菌と共存しているのです。いやその細菌のお陰で健康に生きているとも言えます（腸内の善玉菌って聞きますよね。発酵食品を摂ろうと言いますが、何を発酵させているのか？細菌ですよね）。そして、今回明らかになったファクターXに季節性の風邪を引くという事の重要性もあったんですね。

そして、今回のオミクロンはまさにこの季節性の風邪になろうとしているように私には見えるんですね。（ここで強調したかったことは、一編通りの「撲滅」思考から「共存」という発想に変えると、物事の見え方が変わるのではないかという事です。飽くまで、正しく恐れる必要はありますし、風邪を引く事を勧めている訳でもありません。）

しかし何であれ、今のこの時代になぜ「新型コロナ」が登場したのでしょうか？いや、正確には、私達がその時代を選んだのか？という事です。

それは私たちがチャレンジャーである証でもありますね。

さてここから本論です。

相手の立場になって見ることの重要性

今回の新型コロナオミクロンを通して言いたいことは発想法の転換です。「撲滅」から「共存」へと書きましたが、ではどうやってこの転換が出来るのでしょうか？

私は重要な視点は「相手の立場で見る」事だと思います。相手には相手の言い分や立場があるという事です。これはがん治療にも通じます。がん「撲滅」ではなく、まずは「がんの言い分を聴く」「がんの立場になってみる」事から始めませんか？というのは、私の拙著「がんが消えていく生き方」の常に通奏低音に在ると思っています。コロナなら、コロナの側に立ってみるということ。するとがんやコロナにもそれなりに言い分がある事が分かってきます。しかし、最初からすんなりとその立場には立ちにくいものです。いずれも命がかかっていると冷静な判断は難しいですね。

やはり「死にたくない」が心を曇らせていた？

私の経験では「がん」を告知された時、まずは信じませんでした。何かの間違いだと思ったんですね。しかし、そこから逃げられないことが分かった時（がんを認めた時）に次に思ったのは「なぜ？どうして？がん？何か悪いことをしたの？」でした。そこからは、不安と恐怖の嵐が始まります。「死ぬの？いやだよ。でも死んだらどうなるの？まだ子供の学費かかるよね。クリニックどうする？スタッフの給料も払わなくちゃいけないし・・・でも女房が医者だから何とかしてくるかな？でも、楽になるかも？・・・」思いは行ったり来たりでした。今から思えば、偏に「死にたくない」という思いがあったと思います。しかし、「死」と直面したのです。

ある程度落ち着きを取り戻した時に初めて、がんと向き合っていたのではなく、死と向き合っていたことが分かりました。死にたくないのです。

自分の死生観のチェックは「あの世はあるか？」から

最終的に「命」がかかわる場合はその人の「死生観」がとても重要であるという事が分かりました。「死後の世界観」「死から生を見る価値観」です。「死んだらどうなる？自分の人生何だった？あの世はあるの？どういう世界？」と言うのは、スピリチュアルペインと言われ、死後についての科学的証明が未だ説明されていません。そのため、この分野は宗教が担っているのが現状ではないでしょうか。つまり、あの世があるかないかではなく、あの世はあると信じるか信じないかですね。前者は科学的命題であり、エビデンスを必要としますが、未だに証明されていません。しかし、後者は価値観ですから、それぞれ個人の自由であると言えます。

そこで、最もその時に関心のある「あの世」についてこの際一度考えてみましょう。

実はそもそも死にたくない私たちは、実は真剣に考えようとしたことはありません。しかし、今回の通信では、「あの世」を考えることが実は思いのほか重要で、とても大きな効用があるときがあるという話なのです。

さて、あなたはどう思われますか？

あなたにとって、とても大事な人から「あの世ってあるのかな？」と問われたらどう応えられますか？

「あの世があるもないも『あの世』を考えるのは現実逃避でしかない・・・」という人もみえるでしょう。実際、以前がんと末期の人に言われたことがありますから。これはとても重要な視点の一つです。この人はあの世に逃げ込まず今を生きるという訳ですから、素晴らしい発想法です。しかし、がんによる痛みや不安が大きくなってくると人間は今を見続けることが難しく辛くなることも経験してきました。ですから、今回はそう問われたら？で考えてみましょう。あなた自身はどう思われますか？

①あの世はない派？

②あの世はある派？

まず、実は「あの世はない派」と言う人からこの質問を受けることはないでしょうね。ない派の人にその概念はないからです。聞くこと自体が既に「あの世」の概念を持っている事になりますから。ですから、私は「あの世はない」と表明されていてもその人から「在ると思いますか？」と聞かれたら既に「ある」事の期待を込めておられるか、選択に揺らいでいると感じます。しかし、同時にそれは余りに現実が厳しいという発信とも受け取れますね。

事実あの世はない場合を想定しましょう。すると、あると信じて死のうがないと信じて死のうが、死んだあとは「ない」ので、それを後悔したり咎めたりする自分も「ない」と言えます。ですから、実はない派の人は対応も簡単で「そうですね」で終わりだと言えます。

ですから問題は「ある派」です。「ある」とする以上、「どういう世界だろうか？」という次の

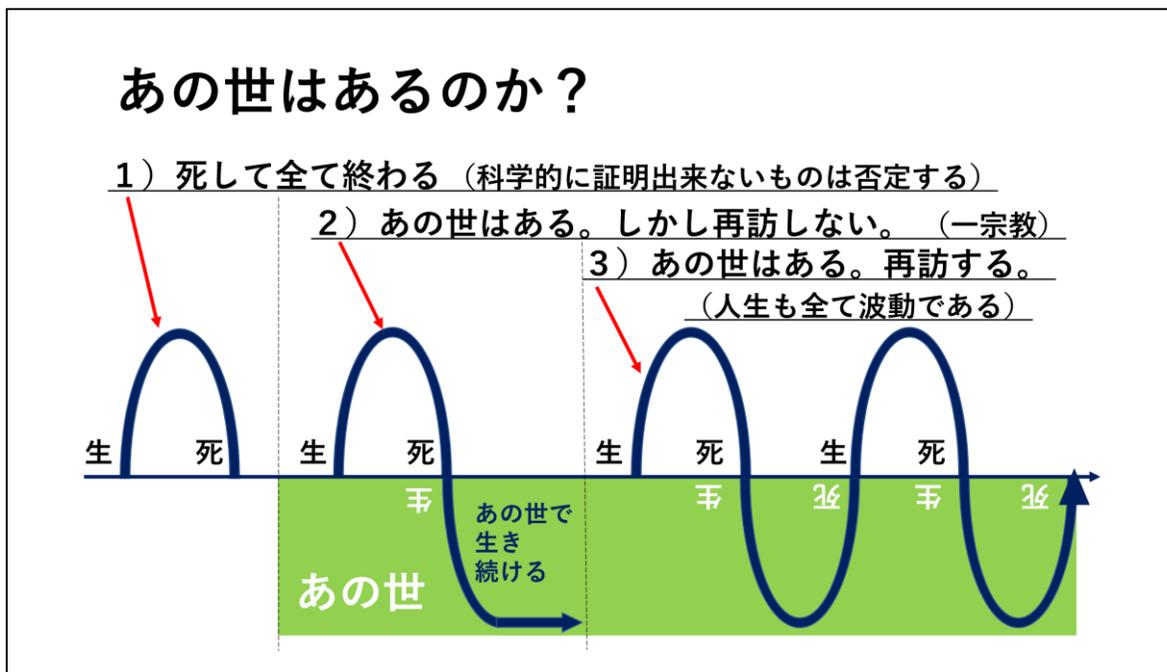
質問が来るからです。しかし、大丈夫、実は「ある」と信じている人は既に独自の「あの世観」を持っている場合が多いです。ですから、「死後はどんな世界だろう？」と聞かれても、こちらから「どう思いますか？」と促すだけでご自分から紹介してもらえます。多くはこの世的に学んでこられたその人の宗教観になります。

死生観は価値観論（いきがい論）でみる

今回は私が臨床の現場で良く使っている死生観を以下に紹介しましょう。（今から20年程前に当時福島大学教授の飯田史彦先生が「生きがいの創造」という一冊の本をまとめられました。以下の論拠はそこから引用させて頂いております）

重要なことは、あの世は「あるかないか」ではなく、「あると信じる方が幸せか、ないと信じた方が幸せか」と言う「価値観論」であるという事です。人は信教の自由があり、その意味でどう信じようとも自由だからです。ですから、以下はあの世はあるとした場合の一つの展開方法であると理解くださいね。（今までの通信と重なるところもありますが、ご容赦ください）

あの世はあるか？



あの世があるという場合2)と3)になります。2)はあの世はあるものの、死後の世界が永遠であるとする考え方（キリスト教など）と3)の死後何度もこの世へ生まれ変わってくる（転生輪廻）という考え方（仏教など）の2つがあります。私たち特に末期の看取りをする医療者は、自分が信じるか否かに関わらずこのどれにも対応できる死生観を承知している必要があると思っています（私は寄り添い力と言っています）。しかし、先にも紹介しました通り、実は1)

のあの世はないとする人はそもそも「あの世はあるの？」とは問いかけてきません。ですから、2)の人には「あの世はある」事を否定しないという態度で臨みますし、3)は生まれ変わりもある事も否定しません。まず、その人の死生観（価値観）として受容します。

今から20数年前に当時福島大学教授であった飯田史彦氏の「生きがいの創造」という本がベストセラーになりました。その頃この死生観を臨床に応用する医療者のネットワークがこの飯田先生を中心に結成されました。多くは緩和ケアで働く医療者でしたが、やはり現場での必要性を感じていたのだと思います（このネットワークは今はありませんが）。

私は個人的に、「世界は全て相似形」という概念を自然だと感じていますので、鼓動や呼吸、日周期や年周期、光から音まで世界の構成要素が波動である事を思うと、人間の転生も波動のようにあの世とこの世を往還する存在であるという考え方はしっくりきます。

しかし、真実は分からず、飽くまでそう信じているという話ですが。そう信じて不都合がないですし、混乱したら相似形の法則で考えるとしっくりくることが多いからです。

あの世の検証

あの世の検証

- 1) 退行催眠による研究
- 2) 臨死体験者による研究
- 3) 過去世を記憶する子供たちの研究

⇒ 価値観論として

飯田史彦氏「生きがいの創造」初版1996,6

そして実際あの世を科学的に研究している学者や研究者はいます。3つの切り口での研究があると「生きがいの創造」では紹介されています。

1) 退行催眠による研究とは、人生の苦難に向き合った時に、それを窓口（アンカー）に催眠（意識の集中）をかけ、その苦難の原因となる出来事までさかのぼる手法です。なぜこんな病気になったのか？なぜこんな障害をもって生まれたのか？なぜこんな災難にあうのか？など、年齢退行していく中で幼少時に原因が在ったり（インナーチャイルドワーク）、前世に原因が在ったり（前世療法）することに本人が芯から気付き納得する事で現状が治らなくとも癒され、その事態を受け入れ前向きに生き直すきっかけになると言います。

しかも、最近ではカルテや戸籍の保存により、国外へ出たこともない人から、催眠中に口から出た情報（以前どの国で生き、どんな死に方をしたなど）を確認できるようになり、時にはそれがぴったり符合するというのです。たまたまのたまかせが偶然当たったと考えることが科学的なのか、本当にその人は以前その人生を生きたと考える方（前世があって転生した）が妥当

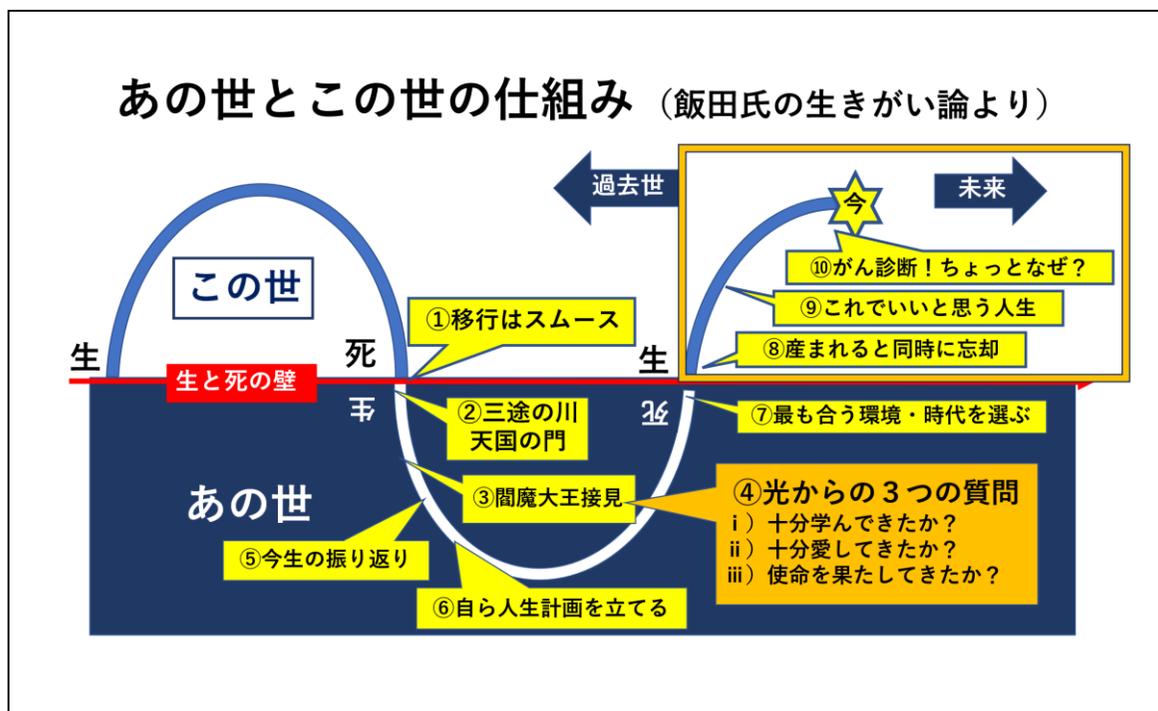
なのか？この研究者は転生輪廻は信じていませんでしたが、「認めざるを得ない」という結論に達したと言います。加えて「それを信じたからと言って何ら問題もなかった」とも追加されていました。

2) 臨死体験者の研究も、心肺停止状態の間に垣間見た世界が、あまりに美しく香しい世界であると誰もが証言されました。心肺停止の状態でその記憶を誰もが持っている。その人の死生観(あの世を信じる信じない)にかかわらず、あの世の記憶を持って帰ってくるというのです。そうした人たちからの情報を集められ研究されています。

3) 過去世を記憶する子供たちの研究は、外国へ行ったことのない子供が、「昔アメリカで住んでいた」とか、実際学んでもいないのに流ちょうに英語を話したりする現象を集めた研究もあります。

1)～3)に共通している事は「過去に他の人生を歩み、そこで死に、あの世へ行って再度こちらを再訪した」という構図に変わりはありません。しかも、こうした研究から、もっと凄いことが分かってきたのです。それが「あの世の仕組みと転生輪廻の仕組み」です。次にそれを見ましょう。

あの世とこの世の仕組み



私たちは死ぬときの①移行はスムーズであると証言は言います。特に病気などあまりに辛い状況があり「死」を「覚悟」している人ほど、肉体を去ると肉体的苦しみが取れ「助かった」と証言しています。その意味では、突然の不慮の死は本人が自覚していない(肉体はないが「生き

ている」と思い込むため意識だけ強く遣る) 場合は実は本人が死を自覚するまでに数百年かかったという証言もあるのです。死後肉体がないので自由自在に移動できます。空中も飛び壁も通過できます。瞬時に地球の裏側に住む息子のもとへ「行きたい」と願えば移動もできるといいます。こうして、死後は生前行った思い出の場所や会いたい人への挨拶などに行くそうですが、許される時間のリミットは49日。その後、パイプの中を急速に移動しとても美しく香しい場所(賽の河原)へ行くようです。そこには②三途の川がながれ、クリスチャンは天国の門があり門番が居る。まだ準備が出来ていない人はここでこの世へ返される様です(それが臨死体験者)。しかし時が来ている人は向こう側、彼岸へと到達します。彼岸へ渡ると光が近づいてきます。近くに来るとそれが最も会いたかった先立った家族や友人で、記憶のままの姿で登場し再会を喜び在りし日の思い出話に花が咲くといひます。その後、次に移行します。それが③閻魔大王との接見です。閻魔様と言っても実は光の天使でなぜか奇数個の光だそうです。

その光たちはとても威厳に満ち畏れ多いと感じる光だそうです。そして、その④光はそこで3つの質問を尋ねられます。3つだけです。それ以外はないようです。

どうぞ皆さんも今、自分に問うて正直に伝えてみてください。

i) あなたは十分学んできましたか?

ii) あなたは十分愛してきましたか?

iii) あなたの使命を十分果たしてきましたか?

その後、皆さんの在りし日の生まれてから死ぬまでの出来事的一切合切を、何を考えたかなどちょっとした心の機微まで含めすべて、⑤3Dで再体験させられると言ひます。しかも、その体験では自分の行為や言葉によって、その後どう縁起していったかも全て体験させられる様です。人に嘘をついた人は嘘を言われた人の悲しみを、人を叩いた人は叩かれた人の痛みと悲しみを、人を殺めた人は殺された人の苦悩とそれを知った家族の悲しみや怒りまで全てを克明に見せつけられると言ひます。「自分は何と多くの人を傷付けしまったのか」と自らの愚かしさに胸をたたき反省と後悔、慚愧の思いでいっぱいになると言ひます。「何と自分は愚かだったのか・・・申し訳ない・・・」この時、光の存在が問いかけます。「では、あなたはこれからどうしますか?」多くの魂は、「今度こそはしっかりやり直します」ともう一度この世への再訪を願うと言ひます。「では、その人生計画を作りなさい」。こうして私たちは⑥自ら自分の人生計画を綿密に立てるのです。あらゆる場合を想定して、もし失敗したら自分への気づきのサインを病気や事故で知らせ、応援してくれる魂もお願いします。それをソウルメイトと言ひます。こうして、皆さんは、今から*年(年齢)か前に⑦今の時代、国、両親、性別、家庭環境、性格まで選び、自分の願ひを成就できる準備を整えて生まれて来たのです。生まれて来たのも、今の環境もすべては皆さんが望んだとおりのシナリオ(問題集)だと言ひえるというのです。しかし、⑧産まれると同時にその記憶は薄れ忘却します。だから生まれた環境や境遇に染まった人生を

⑨その後獲得した価値観で作り始めます。その結果、体に無理をかければ病気にもなるのです。がんも貴方の予定通りに登場したと言えるでしょう。こうして予定通り問題集はあなたに「偶然のふり」をして訪れます。⑩「がん？何で俺が？今、こんな目に遭わなくちゃいけないんだ？しかし、それも自分の魂が計画したのです。

それどころか、最後の最期「死」すら、それを体験したくて生まれたとも証言では言います。あの世の魂たちは「死んだ」経験がないからです。その為に、生きている間は「死への恐怖」を持つように設定されているのです。光をより強くする方法は、いかに光らせるかだけでなく、いかにその周囲を暗くするか・・死を見つめれば見つめるほど、光はまぶしくなるのです。そしてこの全ては魂の成長のためだと証言は言うのです。

(私の第2弾の新刊「死が教えてくれた幸せの本質」はここをフォーカスしました)

生きがいを創造する5つの仮説

「生きがいの創造」

- 1) 死後生仮説; 人は死んでも終わらない存在
- 2) 生まれ変わり仮説; 人は死後再度この世に再訪する存在である
- 3) 因果関係仮説; 自ら出したものは必ず自らに戻る
- 4) ソウルメイト仮説; 愛する人とは必ず会える
- 5) ライフレッスン仮説; 自らの人生の計画は自らが立てていた

こうした人生のシナリオから生きがいの創造では5つの仮説として紹介されています。

1) 死後生仮説:

『人は死んでも終わらない存在である。つまり人は死んでも生き続ける存在である⇒あの世はある⇒「死」が最大の「恐怖」である人にとっては、これ程の福音はない。死はもはや「恐怖」ではなく「楽しみ」にすらなる。』

2) 生まれ変わり仮説; 『人は死後、中間生（あの世）でその人生を反省し新たな希望と抱負を抱き再度この地上界へと訪問する存在である⇒「愛する人とまた逢える」「なしえなかった夢を次の人生で実現する」など、死後再度生まれ変わるからこそ持てる希望がある。』

時に妊娠し諸事情で産めなかった命にも、「今はその準備が出来ていなかったから、暫く向こうで待っていてね」と心から陳謝すれば、次のチャンスでその命は子供として産まれたという証言もあります。

3) 因果関係仮説；「自分の出したものは、必ず自分に返る⇒自分が返して欲しいものだけを出せば良い⇒自分を褒めて欲しい人は人を褒めればよい。自分が誇られたくない人は人を誇らなければ良い。自分が幸せになりたければ、人の幸せを祈ってあげればよい。しかし私たちは兎角、愛されることだけを願って、愛されないことに不平不満を募らせる。自分が愛されたい人は、まず他人を愛することから始めれば良い」

思えば、私自身も「がん」の病名で沢山の手術をしてきました。私の腎臓がんが発覚した時、一時混乱しましたがその後に手術を受ける決心をした決め手がこの仮説でした。「お前のがんの病名で手術をしてきたじゃないか。お前は同じ病名で切られないつもりか？逃げるのか？」という自分の声です。「自分のしたことは必ず自分に返る」を実感した出来事でした。しかし、そう気が付き「手術を受ける」と決めると、とても気が楽になり、ワクワクして手術に臨んだことを覚えています。手術後は二度とごめんだと思いましたが。

4) ソウルメイト仮説；『ソウルメイトとは：親、子、兄弟、伴侶、親友、ライバル、宿敵までもが、ただ単に劇の配役に過ぎない。そのシナリオを書いたのは他でもない自分自身であり、一人一人は本当は会いたくて会いたくて恋焦がれた魂たちである。愛する人（逢いたい人）には、必ず会える。⇒今が辛く苦しくとも、死後の再会の楽しみが今を乗り越える勇気と力を与えてくれる。時には、先立たれた家族や伴侶に胸を張って会うために、残された生きている時間を、より有意義に生きようと努力する』

親や子供、伴侶、友人はソウルメイトとして受容できても、ライバルや宿敵までそうだとと言われるとピンと来ないかもしれません。しかし、自らの人生計画を自らが作ったとしたら、確かに「この辛い状況でも厳しい言葉をかけてくれ」と取えて憎まれ役をお願いできるのはよほどのソウルメイトに違いありません。皆さんにとって、もし伴侶が厳しいと感じているとすれば、よほどの深いソウルメイトだと言えるかもしれないのです。

5) ライフレッスン仮説；『自分の人生を自らが計画を立てていた⇒乗り越えられない試練はない。人生、思い通りではないが予定通りである。⇒自分に訪れた病気が重ければ重いほど、人生が辛ければ辛いほど、自分はそれにチャレンジするに値する素晴らしい魂である』

この考えは特になんかの厳しい状況におかれた人に殊の外元氣（癒し）を与えます。

試練の大きさを学校の学年時にたとえられて、この本では「まだ地球に来て間がない魂」は人生での問題集レベルを最初は算数でいう足し算引き算程度から始めると言います。小学校も学年が上がれば掛け算、割り算、中学高校へと進むにつれ、因数分解や微積分など、どんどん困難なレベルに上がっていきます。これを人生に置き換えると、最初は非常に順風満帆な人生を

計画するようです。それでも、小学校の低学年は一生懸命ですから。しかし、学びが進むにつれ、人生の問題集も徐々に複雑で難問化していきます。基本的には「思い通りではない困難」が立ち上がり始めるのです。しかし多くの方は経済的にも恵まれ、健康に恵まれ容姿端麗で不自由のない環境を願います。しかしそれは、要するに中高生が小学校へ戻りたいと願っている事と同じなのです。あなたは如何ですか？

では、人生の問題集で言う厳しい問題集とは何でしょう。それは、厳しい試練や困難、病気、失敗、挫折だと著書は言います。とりわけ、産まれながら、他人の世話にならなくては生きて行けないような障害を持って生まれるということ。そしてその親というのは、そうした試練の中でも最上級に位置する非常に進化した魂であるということです。

実際「この肉体を選べば、遺伝子異常もあり障害児として産まれることになる事は知っていた。でもそれを望んだ」と魂は証言するのです。

もしあなたが生まれる魂なら、その肉体を選ぶ勇気がありますか？少なくとも私にはありません。しかし現代も障害児はいます。その条件を知って、それでも生まれたいとその肉体を選んだ魂たちなのです。これを進化した魂と言わず何というのでしょうか？そのご家族も同じです。実は魂レベルでは、子供に障害児が生まれることは知っていると言います。(深い意識では)多くの母親は自分のせいだと悲嘆しますが、事実はそうではなく、進化した勇気ある魂のお手伝いをするに自分の人生をかけた、こちらも素晴らしく進化した魂たちなのです。

今苦しみのどん底で悲嘆に暮れている皆さんは、自分の人生計画を自分が立てている以上、乗り越えられない試練は(問題集を作るはずは)ないという事です。そうです、乗り越えられない試練は決して訪れないのです。でもそう理解したからと言っても事態は思い通りに進む訳ではありません。試練を予定しているからです。そうです、「全ては思い通りではないが、予定通りである」という事なのです。実は私自身もこの言葉にどれほど救われたか分かりません。

私自身が「がん」になったのも、本来で本当の自分自身の人生から離れた時に、自らが設定したアラームが発動したという事だったのです。

年の初め、どうかこの考え方「いきがい論」を新しいリボーンのための11番目の方法として加えたいと思います。

そう考えると、がんやコロナの時代を選んだ私たちは何と素晴らしい魂なのでしょう。きっと世界中で、多くの魂もこの時代に生を享ける事を希望したのではないのでしょうか？「いきがい論」からすれば、既に生まれる前から予定していた(知っていた)事になりますから。だとすれば、どうぞ、ワクワクしながら、この難題に挑戦しようじゃないですか。必ず未来はあります。乗り越えられる試練なのです。

それでも、いずれ逝きます。それも宿命ですから。その時は、できれば「ガッツポーズ」で逝きたいと私は思うのです。

新刊紹介（お知らせ）



今回も長文になってしまいました。いつもながら思いついては縷々書きますので、私の癖で読みづらい文章も沢山あったと思います。ご勘弁下さいね。 最後にお知らせです。拙著「がんが消えていく生き方」が一昨年（令和2年）10月1日に発売以来、お陰様でほぼAmazon 1位でベストセラーを頂いております。まずお読み頂き心から感謝です。しかし、これは同時に「必要な人が多い」という事でもあり、ちょっと複雑な心境でもあります。そこで、この度、新刊「死が教えてくれた幸せの本質」という本を出版することにしました。内容は「がんが消えていく生き方」の「その先」という内容です。本文でも若干紹介しましたが、「私たちはいずれ逝く」というテーマが中心で私の在宅末期

医療の体験から書かせて頂きました。冒頭の方がまさに「ガッツポーズ」で逝かれた人です。Amazon ではすでに予約が始まっております。実際の発売は2月3日だと聞いています。まだゲラが私の手元にありますから・・・汗。どうぞ、ご興味のある人、一度読んで頂き、ご感想をお知らせくださいね。